

# 年報刊行のあいさつ

都市政策研究センター代表 平尾光司

都市政策研究センターは2005年には活動の2年目に入り、初年度に設定した「イノベーション・クラスター形成に向けた川崎市都市政策への提言」に向けての研究活動の多方面な実施が展開された。また、国際シンポジウム、公開講座、研究会が開催することが出来た。

研究活動の主要な成果を列挙すれば以下のとおりである。

- (1) 川崎市中堅・中小企業調査（市内製造業の企業構造の分析をアンケート・実地調査によるデータ収集と分析の実施）
- (2) 都市競争力指標の開発（川崎市の都市競争力をアメリカの主要都市との比較で位置づける指標の開発を行なった）
- (3) 川崎市のマクロ経済構造分析（成長会計、移出入構造、税収構造などの特質を解析）
- (4) 川崎市 商業サービス構造分析（経済のサービス化の中で川崎市の流通・サービス業の現状分析と課題の抽出）
- (5) 川崎市 交通基盤調査〈羽田空港国際化に対応した航空貨物流動調査の実施〉
- (6) 海外先進クラスター事例調査（イギリス・ケンブリッジ、フランス・ソフィア・アンテイ・ポリス、ドイツ・ミュンヘン・シュットツガルト）

本年報はそれらの活動内容を編集・収録したものである。なお、センターの研究員による研究論文は論文集および論文集（追補版）に収録し別途の刊行物として発刊済みである。

本年報は3部から構成されている。

第Ⅰ部は国際シンポジウム「イノベーション・クラスターの世界的な展開とネットワークの役割」（2005年11月12日実施）と公開講座「ヨーロッパにおけるイノベーション・クラスターの展開」（2005年7月28日）の記録である。シンポジウムは西口敏宏一橋大学教授によるスモールワールド・ネットワーク理論による基調講演のあとアメリカ、中国、韓国、日本からの報告者による報告とパネルディスカッションが行なわれて地域イノベーションの展開策の意見交換が行なわれた。

本シンポジウムは神奈川サイエンスパークで開催された第9回アジア・サイエンスパーク協会年次総会のプログラムの一環にも組み込まれて多彩な参加と討議が展開された。

第Ⅱ部は公開講座、すなわちヨーロッパの先進クラスターの実地調査と川崎市への示唆を中心に行なわれた報告と質疑の記録である。

第Ⅲ部は都市センターの研究会の記録である。都市政策研究センターでは分野別のユニット研究体制をとっており、各ユニットが外部講師を招いてユニット横断的な研究会を随時開催している。本年報ではその主要な研究会活動の記録を収録した。川崎市の行政担当、他大学研究者、民

間機関など多様な講師の報告は我々の研究視点を広げるのに参考にさせていただいている。

第Ⅳ部は川崎臨海部再生リエゾン推進協議会主催の「臨海部再生シンポジウム2006－臨海部－環境共生型産業のモデル地域へ」〈2006年3月23日〉における平尾光司の基調講演を同協議会のご好意によって収録したものである。空洞化が懸念された臨海部が再生を遂げつつある現状の紹介と環境共生型産業、知識集約型産業構造への一層の高度化への条件を羽田空港の国際空港化という新しいインフラ整備の中で展望をおこなった。

2004年に引き続き本年も我々の研究活動にご協力いただいた関係各位、特に川崎市、川崎市産業振興財団、川崎商工会議所、株式会社KSP、川崎信用金庫および日本政策投資銀行の皆様には深く謝意を表したい。